

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

代表 原田 邦昭

2019 年 1 月発行



群馬県環境アドバイザーの動き

(平成 31 年 1 月 20 日現在)新規登録 00 名

第 11 期(登録期間:平成 30 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日)です。新規登録者を含め平成 31 年 1 月 20 日現在、男性 161 名、女性 79 名、合計 240 名です。

自然環境部会 111 名 温暖化・エネルギー部会 80 名、ごみ部会 76 名、広報委員会 24 名が登録し活動されています。

送付方法、メール 115 名 封書 125 名

表紙写真

赤城南面から見た雪の浅間山：冬になると県内の多くの場所から雪の浅間山を見ることができます。冠雪の浅間山は富士山と並ぶほど優雅で美しいです。そんな浅間山を望みながら難問の多い環境問題への取り組みへの思いを新たにしました。

表紙画像・文 広報委員会 井上 金治

目次

- P1 副代表からの挨拶
- P2 ごみフォーラムを終えて
- P3 沼田・渋川地区からの報告
- P4 沼田地区からの報告
- P5 太田・みどり・桐生地区からの報告
- P6 温暖化・エネルギー部会から
- P7 こどもエコクラブ、編集後記

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。

<http://www.gccca.jp/volunteer/>

新年挨拶 環境アドバイザー

副代表 宗 義彦

明けましておめでとうございます。

平成も4月で終わります。新しい年号がどのような名称になるか興味津々です。

私は環境アドバイザーの副代表という大役を仰せつかりましたが、まだ町の役(生涯学習奨励員・老人会の役員・神社の総代)を始め週2回ではありますが仕事をしておりまして、アドバイザーの仕事はたいした事も出来ず皆様のお役に立てず申し訳なく思っております。

前橋会が昨年の6月より活動を始め、基本的に偶数月の第2土曜日に前橋の中央公民館元気21で皆さんと情報交換を行い、意見を出し合い話し合いをする機会が増え、親睦を深める事ができ、大変良かったと思っております。この会は会員皆さんが日頃行っている活動を報告するだけでなく、他の会員の方よりご意見アドバイス等をいただける貴重な場となってきております、各人この機会を生かしてより活発に活動が行われますよう、私も頑張りますので、皆様ご出席下さるようお願いいたします。

私が取り組んでいます地域の「自然環境を守る会」も14年目を迎え、長年会長としてご尽力下さいました片山満秋会長が29年に急逝されたため、会の責任者に押され会の継続を維持し、地域の自然観察や学習会を通し、関係団体と協力して地域環境を守る活動を行っています。

また、町の広報紙に6年前より年1回環境問題を1面で取り上げ、特にゴミの問題を町民の皆様に考えていただけるように問題を提起してまいりましたが、まだまだ思うような成果はありませんが、今後も続けてまいりたいと思っています。

今日CO₂問題、異常気象等様々な環境破壊が進んでいます。環境を守る問題は深刻です、限りある資源を効率的に利用すると共に再生産を行い、持続可能な形で循環させながら利用していく社会にしていくには難しい事ですが、一人一人の考え方や行動に委ねられている部分が多く、そのため民間の環境保全活動は大切なのではないのでしょうか。

今年も皆様と共に頑張っって少しでも環境改善をするために取り組んでいければと思いますのでご協力ご支援をお願いいたします。

・・

アンケート結果について

「みんなのごみ減量フォーラム」のアンケート結果を見た。参加者の構成は、男性約65%、女性約31%、60歳以上約75%、高崎・前橋市の居住者約56%。参加のキッカケは、所属団体からの口コミなど約65%、メディア等は約25%となっている。所属団体の中では、アドバイザーは当然として、くらしの会が前回に引き続き多かった。また「次回も参加するか？」の質問に対しては、参加したい約53%、テーマによる約27%、無回答約30%だった。

この結果をどう解釈するかは難しいところ。今回は、タイムリーなテーマと人気講師で注目された。次回も早期且つ慎重にテーマ、講師、日時、会場等の大枠を決めておく必要があると思う。

ごみ部会 山田 一朗



第 20 回ぐんま環境フェスティバル in ヤマダ電機

県とぐんま環境フェスティバル実行委員会共催「産・官・学連携」事業として高崎東口のヤマダ電機の1階、2階（室外）、4階のフロアーを借りて、第20回目のぐんま環境フェスティバル「環境と資源の創生社会を目指す」ごみ減量化と資源化の推進を目標として開催されました。

環境アドバイザー連絡協議会では4階のフロアーに、ブース（間口2.8m×奥行2.0m）を頂き、環境アドバイザーの目的、自然環境部会、温暖化・エネルギー部会、ごみ部会、広報委員会の各部会案内と、グリーンニュースをブースに貼り、来場者に見たり、聞いたりして頂き、環境アドバイザーへの入会勧誘も行いました。自然部会ではムジナモの食虫植物を配布すると、年配の方々がお持ち帰りになりました。

今回4階では群馬県環境森林部 環境エネルギー課が携帯・パソコン・電子機器の不用品の収集を公報に出したら沢山の方が持参してくれました。また、パンフレットにはスタンプラリーもあり、スタンプ場所を探して1階～4階を歩いてくれました。

4階には例年のフロン回収事業、地球温暖化防止ぐんま県民会議、日本野鳥の会、群馬県自然保護連盟等、朝日印刷工業等が、1階にはくらしの会、尾瀬高校、前橋工科大学、群馬大学理工学部、ハッ場ダム工事事務所など、全部で30団体が参加していました。

4階の学界基調講演の会場では、高経大 森田稔先生「家計での環境問題と取り組み」、前工大 佐川孝広先生「建設産業と地球環境問題」、群大 西菌大実先生「群馬における気候変動対策のポイント」のお話が聞けました。我ら環境アドバイザー連絡協議会ブースには高崎・前橋・大田・各地区のアドバイザーの方々、また買物がてらの主婦、環境に興味を持っている男性など100人程が見て行かれました。

代表 原田 邦昭



「地球温暖化防止」並びに「ごみ減量化」の取組を呼びかけ ～第23回ごったくまつり～

12月2日（日）、第23回ごったくまつりに出展参加し、「地球温暖化の防止」並びに「ごみの減量」に関する手作りのパネル（A0判）を掲出し、それぞれの現状を来場者に分かり易く説明しました。パネルに関心を示した来場者に対し、思いついたことや小さなことでも良いから、“環境にやさしい行動を起こしましょう”と呼びかけました。地球温暖化については、積雪量の減少や降雪期間が短くなり、野生動物にとっては、住みやすい環境となったことから、シカやイノシシ、ハクビシンなどが人里や田畑などに出没し、農作物に被害を与え、利根沼田地域においては、深刻な課題となっている実態を訴えました。

ごみ排出量については、群馬県は依然としてワースト上位に位置している現状に鑑み、3Rの取り組みを呼びかけました。その結果、3R宣言について多くの方が快く賛同してくださいました。また、「生ごみ」を減量するための“3キリ運動”の取組をお願いしました。

今回のごったくまつりは、ボランティアフェスタ沼田も併催され、“利根沼田ってくらしやすい！！”をテーマに、60団体が参加しました。各参加団体は日頃の活動を発表し、体験コーナーやフリーマーケット、さらに歌や楽器演奏で盛り上げました。また、来場者から家庭で余っている食品を持ち寄っていただきました。米や缶詰、レトルト食品など86.2キログラムが集まり、沼田市フードバンク(青空作業所)へ寄付しました。

師走の季節外れの陽気のなか、例年にも増して多くの来場者で賑わいました。

なお、「ごったく」とは“ごちゃ混ぜ”という意味あいです。

皆さん、次回の「ごったくまつり」(2019年12月1日(日)開催予定)にお出かけください。『天空の城下町・真田の里沼田』でお待ちしています。



写真：3R宣言書を記入する家族連れ

群馬県環境アドバイザー利根沼田連絡協議代表 角田 和男

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

しぶかわ環境まつり

好天に恵まれた9月9日、主催渋川市、運営渋川市環境美化推進協議会による第12回しぶかわ環境まつりが、子持ふれあい公園で、来場者3,700人を迎え盛況のうちに開催されました。

会場では19の団体がそれぞれのブースで、来場者に対して環境に関する啓発活動が行われました。また、その他のコーナーでは、景品が当たる抽選会を始め、遊びのコーナー、処理困難物の回収、フリーマーケット、農産物の販売、模擬店など大勢で賑わいました。そしてその賑わいの中に、ぐんまちゃんが登場すると更に大きな歓声が上がって会場を沸かせました。

こんな状況の中、我々環境アドバイザーは、地球温暖化防止活動ブースを担当することになりました。

今年も、昨年に続いて子ども達を対象に牛乳パックを利用してのエコ工作(ブーメラン)作りを行いました。

そこで子ども達が工作している時間帯をその親たちに、ぐんま3R宣言をして頂きました。更に、3キリ運動や30:10運動の推進も行いました。子ども達は、自分で作成したブーメランを会場で楽しそうに飛ばしていました。

これからも微力ではございますが、地球温暖化防止のための啓発活動を続けていきたいと思っています。

最後に、このまつりに応援して頂いた太田市、前橋市、吉岡町の環境アドバイザー皆様にお礼を申し上げます。



渋川市 伊藤 朝弘

「ウッドビレッジ川場」 & 「発電所・ダム」を見学

～平成30年度地域環境学習事業～

10月2日（火）、奥利根地域の自然資源を活かしたエネルギー関連施設を学ぶことを目的に、地域環境学習事業としてエコカレッジ受講者を含め19名の参加を得、ウッドビレッジ川場をはじめ矢木沢発電所並びに奥利根の4か所のダム見学会を開催しました。

最初に、環境を意識した林業を盛り立てようと、平成27年に立ち上げた「ウッドビレッジ川場」を見学しました。川場村職員から製材所を皮切りにバイオマス発電所、農業ハウスを案内していただきました。製材所では間伐材の丸太を一瞬にして、木質チップにする機械の凄さを知りました。

バイオマス発電所では、自家製のチップを燃料に発電し、その電気は縁組み協定を締結している世田谷区民40世帯に売電するシステムを構築しています。発電時の廃熱は温水として「農業ハウス」に送り、ハウス内では、道の駅川場田園プラザで販売しているイチゴや来年の本格栽培を目指すマンゴーが栽培されていました。

川場村では以前から地域資源を有効活用し、採算を度外視した地域活性化づくり並びに雇用の創出に取り組んでいます。この点について、参加者は「うらやましい限り」と口を揃えて感想を述べていました。

午後の学習箇所を東京電力矢木沢発電所に移し、揚水式発電所の仕組みや役割について、同社職員から説明を受けたあと、ダム真下の地下5階まで階段を歩いて発電諸設備を見て回りました。少々、日頃の運動不足がこたえたようですが、滅多に見学することができないとあって、皆さん感慨もひとしおの様子でした。



同発電所は同社初の揚水式発電所で、しかも2号機は平成2年に世界初の変速揚水発電を開始し脚光を浴びました。（可変速：電力状況に応じて、発電電動機の回転速度を変化させ使用する電力を調整することができる。）

太陽光発電の普及により、揚水式発電所の担う需要調整の運用を学ぶことができました。

このあと、矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダム、最後に小森ダムを見学し、ダムの型式や果たす目的を学び、4枚のダムカードをお土産に帰路に就きました。

車中において、参加者一人ひとりから、「地産地消を念頭にいた木質チップを利用したバイオマス発電所の運用、揚水式発電の見直し、水力発電所の遠方制御など、今日の凄まじい技術革新を目の当たりにしました。」と感想を伺うなど、極めて有意義な学習会となりました。

副代表 角田 和男



太田市環境フェア

太田市環境フェアは11月11日（日）に太田市新田文化会館で開催され15,000人の来場がありました。環境アドバイザーが所属する団体は3団体が出展しました。

NPO 法人新田環境みらいの会のブースではごみ減量の啓発としてお絵かきマイバック創り、桐生市のアドバイザーの協力で風呂敷の使い方の紹介、自然環境の保全では地元の絶滅危惧種や特定外来種の紹介、顕微鏡を使用した珪藻（微生物）の観察に多くの方が興味を持って見学していました。

お絵かきマイバック創りに参加した子供の保護者には「3R宣言」や「3010(さんまるいちまる)運動」、「3キリ運動」の紹介を行い3R宣言は300名を超える方に賛同して頂きました。渋川、前橋、桐生のアドバイザーの方にも協力して頂き有意義な一日でした。

環境は人をつくる、人は環境をつくると言われていますが、日頃から地道な活動が大切であり自分に今何ができるか考えて実行するよい機会になったと思います。これからも継続的にやっていく事に意義があり、一番難しい意識改革を真剣に実行していく事が大切である事を再確認しこれからも活動して行きたいと思っています。



太田市 福田義雄

遊休地を利用した田園風景 ～小平の自然（森と水心地よい環境）づくり～

豊かな森と清らかな清流、ハイキングコースに小平の自然を創出。昔ながらの里山風景、それぞれの楽しみ方がある環境づくり。CO₂濃度が増えて大気の温度が上昇している現在、みどりの多い環境づくりが必要となっています。遊休地を利用したパパイヤ科のパパイヤ（トロピカルフルーツ）と言えばパパイヤを思い浮かべる人も多いでしょう。甘くて酸味が少なく南国を感じさせてくれる香りと舌触りが人気の果物です。またイノシシ、シカ、サルなどの被害が多くなっているがパパイヤは食べないようです。そして除草が少なく管理がしやすい。園芸分類としては熱帯植物。形態では低木ですが1.5m～3m、収穫期は不定期です。耐寒性はやや弱く耐暑性は普通です。葉はお茶となり、茎は枯れると自然に戻ります。葉が大きくCO₂を抑えてくれると思います。



みどり・桐生地区環境アドバイザー 関口 全一郎

温暖化・エネルギー部会より
地域環境学習事業「5 アンペア生活記者に学ぶ省エネ術」
(12月8日(土) 13:30~16:30 高崎市市役所 171 会議室)



募集人員 50 名のところ、当日の来場者が 10 名ほどいらして、全参加者 60 名の大入り満員でした。当日は、PV ネットさんの協力をいただき、太陽光による蓄電池をプロジェクター電源に使い、自然エネルギー由来の電気使用を実演できました。

第一部は朝日新聞記者・斎藤さんの講演では、動機の部分と実生活について。5 アンペア生活を始めるに至ったきっかけは、誰もが経験した東日本大震災。あの時福島にいた当事者としての「思い」。当事者になったことが行動のきっかけになっています。

講師の斎藤さんはその後、自分の省エネだけではなく、今の便利快適な生活や社会について「本当に必要か?」「できないと思いこんでいないか?」と自ら考えることの大切さを伝えました。会場からの質問に対しても具体的な回答をし、「思い込みを捨てると別の方法があることに気づく」と、考えることで楽しくなるとも。

第二部では県内での実践者・星野氏との対談。家族の理解を得ることの難しさ、それでも「押し付けずに話し合うこと」で解決できていくことがわかり、人間の共感力が行動の源になるのではないかとすることをあらためて確認しました。

温暖化・エネルギー部会の今後の予定
スペシャル講演会「SDGs と次世代交通や EV 普及の取組に学ぶ」

日時) 2019 年 2 月 1 日(金) 午後 4 時~6 時

講演 1) 仮題「"SDGs"の概略と温暖化対策に関する群馬県の政策」

群馬県環境森林部

講演 2) 仮題「"SDGs"目標達成の要素としての『次世代交通と電気自動車』の普及を目指して」

群馬大学

会場) サンデンホールディングス(株) セミナールーム (伊勢崎市寿町 20)

定員) 50 名 ※要事前申し込み(氏名・住所・電話番号)

問い合わせは、070-5572-9624 (奈賀) まで

E メール申し込みは ecoadv.gunma.gwarming01@gmail.com

件名は「2/1 環境 ADV 講演会申し込み」として下さい。

温暖化・エネルギー部会長 奈賀 由香子

こどもエコクラブの活動

太田市の生品小学校では調理、絵画、環境等の分野で10年前から土曜スクールを開催しています。環境部門はNPO 法人新田環境みらいの会が担当し平成29年からこどもエコクラブに登録しました。サポーターは会員以外にも専門家のご協力を頂いています。今年は2年生から5年生まで13人の児童が参加し5月から11月迄5回開催しました。参加者には根強い人気があり6年間続けた子供や姉弟で参加している子供もいます。内容は毎月異なり、身近な湧水地の水や水生生物の調査、学校の中の植物調査、お絵かきマイバック作り、首振り人形やブーメラン等のエコグッズ作り等を行いました。

水生生物の調査は人気で環境サポートセンターから借用した顕微鏡を使った観察では盛り上がり時間が超過してしまい迎えに来た家族にも参加して頂き一時間程延長しました。

この講座に参加した子供も意識が変わり家庭でもごみの削減や水の使用等で環境を考えた生活を家族にも話し、実践しているようで将来が楽しみです。



太田市 西村豊

.....

編集後記

年の瀬の迫る29日、吉井の山で仕事をしていると隣の小屋から「シシ食うか？」との掛け声。「へっ？」と意味が解らずにいと「猪だよ！んめえぞ」とニコニコしながら手招きをする。話を聞くと、人家の近くでも野生動物が多く見られるようになっており、100kgを超える大物が近所で獲れたとのこと。

これまで長い時間をかけて里山の中で築かれてきた生態系が、私たちの生活形態の急激な変化に伴いバランスが崩れているようです。里山という人の手が加わるありきの生態系では失われる動植物がいる一方、上手に適応し勢力を伸ばす動植物もいます。このような中で、害獣として駆除されることもあるイノシシですが、こいつを喰らおうとした時“命をいただく”ということを改めて意識することができました。これは日頃スーパーでパッケージされた食品からは感じられない感覚です。

第11期より広報委員となりまして、75,76号と2回の発行に携わることができました。編集をさせていただくにあたり皆様の意識の高さ、行動力に教えられるところがすごく多く、知れば知るほどその先に興味が湧いてきます。紙面においてもこのような“一歩踏み込むことで得られる感覚”を大切に、皆様の行動への一助となることができれば幸いです。

広報委員会 酒井 義明

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。各号のレイアウトは2月、4月、8月、11月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境活動推進係 環境サポートセンター 登坂

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-243-7702 E-mail:tosaka-hitoshi@pref.gunma.lg.jp